

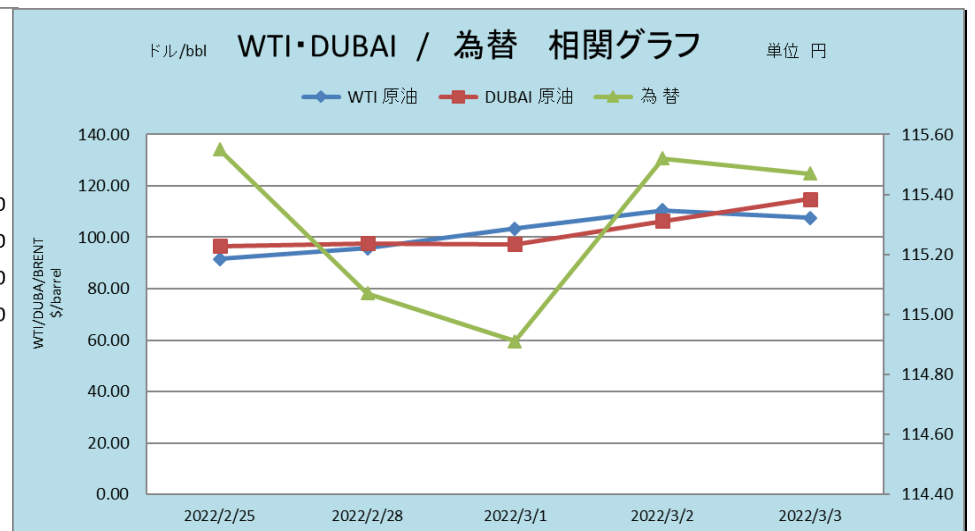
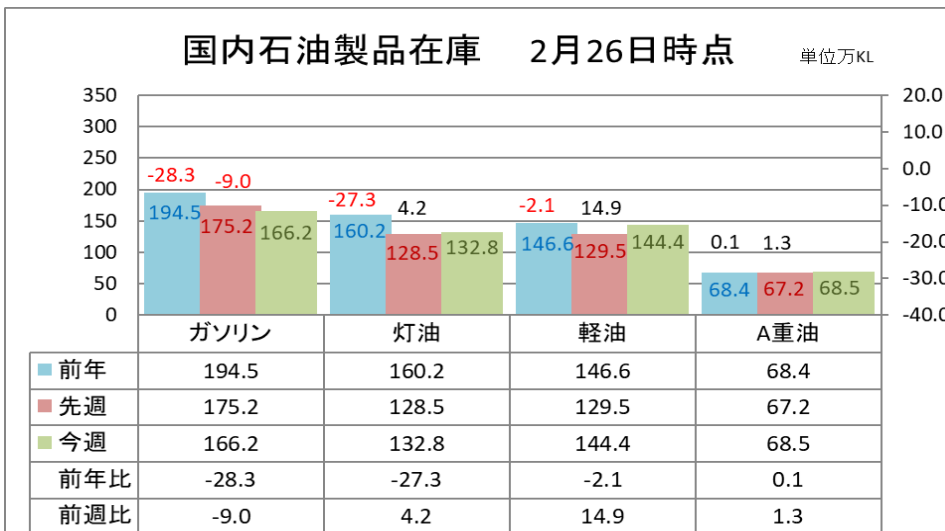
イデックスオイルレポート ~For a week~

2022/3/4作成 (株)新出光

【概況】<ロシア・ウクライナ情勢悪化による供給懸念により上伸>

- 25日、原油は売りが先行しており、ロシア軍がウクライナへの本格侵攻を開始し、ウクライナや黒海を經由して運ばれるロシア産原油(最大日量100万バレル)の供給が混乱するとの懸念が台頭する中、相場はWTI原油で一時100ドルを突破しました。ただその後は、利益確定の売りに押される形となっています。
- 28日、ロシアに対する金融制裁として、事実上ロシア中銀が米連邦準備制度理事会(FRB)に持つドル資産を事実上凍結したことを受けて、ロシアからのエネルギー供給が深刻な打撃を受け、価格高騰を招くとの懸念が台頭したことで原油買いが先行しています。
- 1日、ロシアとウクライナの代表団は前日に停戦交渉を行ったものの、主張の隔たりは大きく、再交渉の場での成否は依然として見通せない状況です。そのため米国やその同盟国は戦略石油備蓄の協調放出を検討しているとされるものの、市場の供給逼迫懸念は払拭されず、相場は朝方にかけてじりじりと上昇しました。
- 2日、「OPECプラス」は2日、オンラインで閣僚級会合を開催しましたが、生産量を毎月日量40万バレルずつ引き上げる従来方針の据え置きで一致しました。需給逼迫観測が一段と強まる中、WTI原油は一時112.51ドルと、2011年5月以来の高値を付けました。
- 3日、ロシアとウクライナの交渉が行われているものの、歩み寄りには困難とされており、対ロシア経済制裁による供給懸念に加え、OPECプラスによる追加増産はないことから、供給逼迫懸念が前日に引き続き材料視され、依然として先高観の強い状況となっています。

3月4日 17:00現在 WTI原油 108.50ドル 為替 1ドル 115.44円



	次回元売変動予測		【製品卸価格】<月間玉販売開始>
	3/10~	前週比実質変動予測	
ガソリン	→	±0~+0.5	《今週》 今週の元売り仕切り改定は3社ともに原油コスト「+2.0円」、補助金「-5.0円」となり、実質「+2.0円」の値上げ改定となりました。2月末は枠の消化が進んでいないディーラーが多く、他社買いせず、自社玉消化に専念する動きが多く見られましたが、消化売りでの市況の悪化により価格が下がっており、月替わりのリセット値上げ前に仕入れをしようとする買い手も多く、週末はオーダーも比較的多くあったようです。 《3月5日以降》 次回の元売り改定は、現状で原油コスト「+10.5~+11.0円」に、補助金は「5円」から「25円」に上限が拡大されましたので試算すると「-15.5円」で、実質として「±0~+0.5円」のスライド予測となっています。補助金の算出方法の変更等もあり、次回改定が下がるのではないかと予測が多く週末から先行して月間玉を扱うディーラーは売りを強めました。先月同様に需要が低調なことも販売を急ぎたい要因となっています。2月後半のような状況での販売を避けるために先行して販売進捗をあげておきたいという思惑も働いているようです。
灯油	→	±0~+0.5	
軽油	→	±0~+0.5	
A重油	→	±0~+0.5	
LSA	→	±0~+0.5	

※原油コスト「+10.5~+11.0円」
 激変緩和補助金「-15.5円」
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】<グリーンLPガスの量産>

日本グリーンLPガス推進協議会はCO2排出を実質ゼロにするLPガスを2030年代前半までに量産すると発表しました。LPガスは使用時にCO2が出ますが、製造時に火力発電所や工業炉から排出されたCO2を利用することで全体の排出量を相殺させるというものです。「日本グリーンLPガス推進協議会」は昨年10月よりENEOSグループ含め、LPガス元売り5社で共同して、LPガスのクリーン化事業を進めていました。その他にENEOSは、グリーンLPガスと同様に化石燃料の代替品となる再生可能エネルギー由来の水素と排出されるCO2を原料とした再エネ合成燃料の製造技術の開発にも取り組んでいます。

[出典]

- ① <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC252110V20C22A2000000/>
- ② https://www.eneos.co.jp/company/rd/intro/low_carbon/efuel.html